

平明の会 山中 智博 議員

子どもの貧困対策について

(質問) 18歳未満の6人に1人が貧困状態にあるとされる。三重県でも国の「子どもの貧困対策法」を受けて今年度中に、対策計画を策定する。貧困の連鎖を断ち切るのは社会の義務であり未来への投資。①鈴鹿市の実態、調査の予定は。②取り組み状況は。③独自の対策計画の策定は。④国が推進する、ひとり親世帯などへのワンストップ相談窓口の整備は。

(答弁) ①貧困率は把握していないが就学援助を受けている小中学生は今年3月末で2,086人、約12%。調査の必要性は認識しているが個人情報の取り扱いもあり慎重に検討する。②今年8月から「生活困窮世帯学習支援事業」として、生活保護世帯および児童養護施設入所の中中学生を対象に学習支援事業を行っている。③予定はなく、県の計画を踏まえ各事業を継続する。④国、県の動向を見極め対応を検討する。

その他の質問 ○空き家対策について

公明党 池上 茂樹 議員

稲生小学校増設について

(質問) 稲生小学校は、今後10年で150名の児童増が予測されることから、平成28年度の供用開始を目指して増設工事を進めている。この工事に伴い、登下校時の安全対策として設置した歩道の中央には電柱があり、雨天時、児童が傘を広げて通行できないなど、安全配慮に欠けると思うが、どう検討されたのか。また、稲生幼稚園の樹木を配した園庭を潰し、駐車場にする

計画が進んでいる。子どもたちの豊かな感性を育てる環境として、自然に触れることのできる空間を確保することは重要であり、園庭を潰さずに別の場所に駐車場を造るべきと思うがどうか。

(答弁) 歩道は、地元自治会や学校関係者からの意見も調整し、設置した。駐車場は、稲生小学校の学校運営協議会の意見も参考にしながら、学校敷地内で駐車場を確保していきたい。

その他の質問 ○高齢者の居場所づくりについて
○小中学校の屋外トイレについて

公明党 船間 涼子 議員

学力向上の取り組みについて

(質問) 本市における児童生徒の学力向上に向けた教育支援体制の確立は、未来の宝である子どもたちに理解力・活用力が付き、学ぶ楽しさ・自信・生き抜く力が漲り、一人一人の幸福のためにつながる重要な課題である。放課後または土曜日に、教室などを活用し、学生や教員OBなど有償ボラ

ンティアによる学習支援事業を導入してはどうか。

(答弁) 児童生徒の学習習慣や、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、子どもたちへの補充学習の取り組みは大変意義がある。地域の方々の協力を得ながら実施されている現在の取り組みを十分生かしながら、各校の実情に応じた補充学習の取り組みが行えるよう支援したい。

その他の質問 ○ICTチェックシステムについて
○図柄入りご当地ナンバーについて

日本共産党 森川ヤスエ 議員

地域支援事業及び在宅支援事業について

(質問) オムツ支給事業は本市が独自施策として他市に先駆けて制度化した市民に大変喜ばれている事業の一つである。しかし、10月から制度を変えて利用者の条件を介護認定3以上の方や非課税者に限定することになるが、介護認定調査には排泄状況を尋ねる項目はない。個人の排泄の状況把握ができないのに介護認定審査を取り入れること、しかも要介護3以上の方に利

用を制限することはオムツ支給の正当な理由にはならない。また非課税者に限定することは、税金を納める市民にはサービスを受けさせないということになり、納税者を締め出すことは不条理である。従来のようにオムツが必要な人が利用できるよう制度を元に戻すことを求める。

(答弁) 介護保険法の改正により、特別養護老人ホームの入所基準が要介護3以上の方とされたことや制度を維持運営していく上で、本人の所得が非課税の世帯が対象となった。

その他の質問 ○マイナンバー制度について